

# 宣教と神学：ユダヤ人伝道の神学的位置づけ

2006年度 Spring

四月二十四日

## 目次：

宣教と神学の深い出会い	1
ユダヤ人伝道－教会の召命－	1
重要教理と些細な教えの扱い	2
歴史的千年王国説と…	2
漸進的ディスペンセーション主義の千年王国説と…	2
後千年王国説と…	3
無千年王国説と…	3
パネル・ディスカッション	3
当日の最新プログラム	4

## 【お願い】

当日の昼食は、受付にて弁当の注文を受け付ける予定です。ただ、今回の研究会はかなり大人数になることが予想されています。弁当屋さんにある程度の数の予約注文をいれる必要もありますので、参加希望者は下記の「安黒」まで出席者の名前と弁当の予約注文の有無をお知らせください。

Tel. 090-5064-7313 (あぐろ)

## 教会と宣教とが漸進的に深く神学との出会いを

例年通り、クリスマス行事を終え、年も押し迫った2005年12月29日、日本福音主義神学会西部部会の理事会が開催されました。そして2006年の「春期研究会議」の相談がなされ、コーディネーターが数名選出されました。今回のテーマは「宣教」を重視する特長をもつ関西聖書学院で開催されることもあり、「宣教」という視点が提案されました。ただ、神学会は宣教大会とは異なり、宣教を考える上においても「神学」との関わりが考慮されなければその存在意義を失うことにもなります。

というわけで、「宣教と神学」という大枠が決定されました。このときに話し合いの基盤となりましたのは、「教会と宣教とが漸進的に深く神学との出会いを経験してきた」歴史的脈絡において開催されましたローザンヌ世界伝道会議とその結実としての「ローザンヌ誓約」でありました。福音派における宣教の「マグナ・カルタ(大憲章)」と言われています誓約です。最初はこの



今回の研究会の会場：関西聖書学院の正門

「ローザンヌ誓約」とその後の継続研究会議を含めてのローザンヌ運動の動向等を包括的に取り扱う内容の主題講演を、ローザンヌ会議の講師であり、また『ローザンヌ誓約－解説と注釈－』の翻訳者、論文集『ポスト・ローザンヌ』の編集者である宇田進先生に打診しましたが、健康に少し不安を抱えておられていましたので、話し合いを振り出しに戻し、検討をしました。

## 『ユダヤ人伝道－教会への召命－』

「宣教と神学」というテーマでは、大きすぎますので、各論として何に焦点をあてるかが議論となり、「世界宣教のためのローザンヌ委員会」において『ユダヤ人伝道－教会への召命－』(ローザンヌ宣教シリーズ No.60)が翻訳されることと、「宣教と神学」というテーマとして聖書解釈、終末論、千年王国説等の議論とかみあわ

せて、このテーマを扱うことは神学会としてふさわしいことではないかということになりました。

関西には福音主義神学会に属する多様な教派の神学校があり、それは神さまの大きな祝福を構成しています。ある神学者は福音派は「一枚のモザイクの絵」のようであると言っています。福音派は、「聖書は神の靈感によつ

## 重要“Crucial”な教理と些細“Trivial”な教えの扱い

て書かれた誤りのない神のことばである。」という点において一致しており、教理的にも主要な“幹”となる教理の大半において一致しています。ただ、“枝葉”となる部分での聖書解釈においては多様性がみられます。

今回のテーマと深い関係のある「終末論」においても「時間上の死、中間状態、再臨、からだの復活、最後の審判」という重要“Crucial”な教理について一致しています。しかし、「千年王国の理解、再臨についての理解（二重再臨か、単一の再臨か、大患難の前なのか、後なのか等々）」の些細（trivial）な教えにおいては聖書解釈の相違があります。

福音派の研究会議では、相違点をできるだけ扱わないで、一致点に比重を置いて取

り組もうとする空気があるわけですが、今回は「相違点を明らかにしつつ一致点“Unity in Diversities among Evangelicals”」を探求する機会になればと考えています。

今回は、長年それぞれの神学校で「組織神学」の科目を教えてこられた先生方が語ってくださいますので、このテーマに関しては所属教派の教えのみならず、他教派の教えにも通じておられる先生方ですから、充実した中身と建設的な方向性を意識した議論が期待できると考えています。

発題と集会は、インターネットで同時中継され、後日ホームページ上にビデオ・ファイル掲載されます。また、希望者にはDVDによる提供もなされる予定です。

（コーディネーター長：安黒）



スタッフ・神学生の寮

## 1. 歴史的前千年王国説とユダヤ人伝道の神学的位置づけ

### 関西聖書学院：安黒務

元々は、ディスペンセーション的な見方を教えられてきて、よく分からないまま受け入れてきましたが、エリクソン著『キリスト教神学』を翻訳させていただき、それをテキストとして「終末論」を何度か講義しているうちに、わたしはエリクソンの理解の方がよりすぐれた聖書理解であり、よりすぐれた聖書解釈であると思うようになりました。そして、エリク

ソンの理解の基盤にG.E.ラッドやJ.マーレーやG.ヴォスの聖書解釈があることも知りました。今回はそのあたりを紹介していきたいと思います。(1)「旧約聖書の預言的箇所」の聖書解釈の原則の検討(ジョージ・E・ラッドより)、(2)「ローマ7, 8, 9章の解釈」からのイスラエルの神学的位置づけ(ジョン・マーレーより)、(3)より困難の少ない見方としての「歴史的前千年王国説」(ミラード・J・エリクソンより)

関西には福音主義神学会に属する多様な教派の神学校があり、それは神さまの大きな祝福を構成しています。

## 2. 漸進的ディスペンセーション主義の前千年王国説とユダヤ人伝道の神学的位置づけ

### 福音聖書神学校：眞鍋孝

序論：福音主義神学者として、私たちは多くの点で一致している。共有する聖書解釈原理に立ち、真理の体系化を図っているからである。しかし、終末論に関しては、立場の大きな相違が存在している。何故か、今までの福音主義神学の研鑽の中で、一つの領域がクローズアップされてきた。それは、旧約のキリスト再臨、イスラエルの回復、救

いの完成に関する預言部分の解釈が福音主義者間で鋭く対立しているという事実である。この問題と取り組む必要がある。この面におけるプログレッシブ・ディスペンセーション主義の聖書解釈の一貫性を紹介したい。

(1)キリスト再臨預言は、キリスト初臨の預言(旧約)と成就(新約)に見る解釈原理で解釈して終末論を構築すべきである。2～3の具体例を述べる。(2)上の議論で確認し

た解釈原理で聖書全体の終末に関する預言部分を解釈して神の救済史に図表化すれば、以下ようになる。図表の提示。(3)時間の許される範囲内で、イエス・キリストの終末講話；I、IIテサロニケ；ダニエル等の聖書記事を検証する。

結論：福音主義者として今後とも互いにみことばの研鑽に励み、終末論、また、イスラエルの回復についても聖書の啓示事実と合致する理解に到達したい。

### 3. 後千年王国説とユダヤ人伝道の神学的位置づけ

#### 神戸神学館:滝浦滋

現在の準備の段階での要点にすぎませんがとりあえずお送りします。

1) 聖書の骨格としての「契約」(特にアブラハム契約の第三点)、2) 聖書啓示の進展を「王権と王国」について見る、3) 「神の王国」のキリスト初臨後の「現実性」「地上性」と特質、4) 千年王国預言とピューリタンらの希望、5) 近代福音主義の現実逃避傾向の克服としてのポストミレ



集会場と吹き抜け



美しい空中回廊

そうでなければ/それとともに、準備委員の方からお願いする際に、かなりよく説明することで、全体の焦点が定まった討議ができると思います。

私の感じでは、終末論の立場の違いに焦点が行くよりも、それらの違いはあってもユダヤ人宣教が今の時代にどのような重大な意味を持つのか、ということが多角的に把握されるような会になれば、新しい発見の連続のような刺激に満ちたものになれば、と思います。宣教学会、聖書学会などにはできない、福音主義神学会ならではの討論ができればと願っているわけです。

ローザンヌの資料のことですが、邦訳はほぼ完成していますが、まだ私も原稿を手に入れていません。Http://www.lausanne.org から入ればLOPsのpdfの形式でのダウンロードが可能です。

### 4. 無千年王国説とユダヤ人伝道の神学的位置づけ

#### 神戸改革派神学校:市川康則

私の今の計画としては以下のとおりです。

1) 「ア」ミレの真義について——黙示録解釈と「先年支配」(20章)の意味、2) 「全イスラエルが救われる」(ロマ11:25)とは、3) 神の契約の真実(信実)性・一貫性——イスラエル・キリスト・教会、4) 教会の唯一性・公同性とイスラエルの躓き、5) 教会の“負債”としてのイスラエル宣教、6) 実際の諸問題

#### パネル・ディスカッション

#### 神戸ルーテル神学校:正木牧人

さて、午後のパネルの件ですが、午前の4名の発表者の先生方に加えて、準会員の他の神学校の先生方にも前に一緒にすわっていただいて、しばらくまずClarificationの質疑応答をしたいと思います。

さらに、午前の発題で見えてくるいくつかのポイントをとりあげて、同じ質問を全員になげかけるようなことはどうか、と考えています。そして、フロアからの質問を受け付けますが、時間の関係もありひとつ

ひとつ受けないで、次々に質問のみを受けていき、ころあいをみて質問をいくつかのカテゴリーにまとめて、一括してパネラーに答えていただく、という形はどうか、と思っています。

パネラーが多くなるので心配されるのは焦点がぼけることですね。これは避けたい。そのためには、午前の発題の先生方から、メモ的なものであっても発題の内容の紹介が事前に必要ではないか、と思われれます。それを事前に読んでおいていただくことでパネラー間にただようかもしれない場当たりのな雰囲気回避することができます。

今回は、かなり難しいテーマでもありますので、参加される方にできるだけ全体の情報を提供させていただき、そのことにより建設的な研究会議となることを目指しています。ただ、発題して下さる先生方のアウトラインは暫定的なもので、準備経過の中で多少の変更もあることをご了解ください。



窓からの風景

日本福音主義神学会 西部部会  
春の研究会議・総会のご案内

*Mission & Theology : Jewish Evangelism*

1. 日時 : 2006年 4月24日 (月) 10:00am - 4:30pm
2. 場所 : 関西聖書学院 (KANSAI BIBLE INSTITUTE)  
〒630-0266 奈良県生駒市門前町 22-1 【TEL.0743-70-8600】
3. 主題 : 宣教と神学 : ユダヤ人伝道の神学的位置づけ

今回は奈良に移転しました「関西聖書学院」の新校舎で開催されることとなりました。MTCのコースを持ち、宣教に深い関心を寄せるこの神学校で歴史を通じて“ホット”なテーマである「ユダヤ人伝道」を、神学会を構成している特色のある幾つかの神学校から「終末論—千年王国説—ユダヤ人伝道の位置づけ」の神学的視点を紹介しあい建設的な対話と議論を通じて会員相互の理解を深めることができたらと考えています。

4. プログラム (敬称略)

- 10:00 受付: (10:00-10:30 理事会)  
10:30- 10:40 開会礼拝: 賛美・祈り (福田充男)・歓迎の言葉 (大田裕作)  
10:40- 10:50 研究会議導入・午前の集会進行 (福田充男)

【 発題 】

- 10:50-11:15 『歴史的前千年王国説とユダヤ人伝道の神学的位置づけ』 安黒 務  
11:15-11:40 『漸進的ディスペンセーション主義の前千年王国説と  
ユダヤ人伝道の神学的位置づけ』 眞鍋 孝  
休憩 10分

- 11:50-12:15 『後千年王国説とユダヤ人伝道の神学的位置づけ』 瀧浦 滋  
12:15-12:40 『無千年王国説とユダヤ人伝道の神学的位置づけ』 市川康則  
12:40 - 1:30 昼食 1:30 - 2:00 総会

2:00 - 4:00 【 パネル・ディスカッションと質疑応答 】: 司会 正木牧人

主題 —ユダヤ人伝道の神学的位置づけ—

パネラー: 研究発表者と他の神学校の組織神学教師も加えて

- 4:00 - 4:30 閉会礼拝: 全体の総括・賛美・献金・祈り: (鷹取裕成)

(コーディネーター: 眞鍋、福田、正木、安黒)